

## 2016 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 岡崎市立秦梨小学校 ] 担当教諭名 [ 黒野 峰幸 ] ( 6年1組 8名 )

相手国・地域 [ ウガンダ ]

海外学校名 [ Kasangula Talent School ] 担当教諭名 [ Mukisa Emmanuel ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	秦梨の未来に残したいものを考えよう	10
	総合的な学習の時間	秦梨小学校のことをウガンダに伝えよう	12
	図画工作	秦梨の未来に残したいものを壁画に描こう	12

### ■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	学校や地域の未来に残したいものを伝え合おう
メッセージ (相手と一緒に 絵に込めた想い)	学校や地域の良さを知り、未来に残したいものを壁画に描くことによって、自然保護や環境保全、伝統文化の継承などの大切さに気付き、それらを自分たちの手で守っていかねばいけないという思いを込めた。



### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の学校と対比させることで、学校や地域を見つめ直すよい機会になった。</li> <li>フォーラムを通して、ウガンダの子供たちと交流することによって、視野を広げることができた。</li> <li>活動の内容を全校児童、地域に発信できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通信環境の問題があり、テレビ会議による交流を行うことができなかった。</li> <li>相手国との夏休みや冬休みの期間が異なり、日程的に苦しい時期があった。ウガンダの子供たちに壁画を描くことを急がせてしまったように感じる。</li> </ul>

### ■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> <li>子供たちにとって、ウガンダという国はまったく知らなかったが、交流を通して親近感のある国へと変化していた。</li> <li>ウガンダの子供たちが、自分たちと同じような活動に取り組んでいることを知り、自然保護や環境保全は世界共通の問題であると認識することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最初は外国との交流、特に言語が異なることに不安を感じていたが、フォーラムでメッセージや画像などの情報発信を繰り返すことで解消していった。</li> <li>子供たち同様に相手国に対する理解を深めることができた。</li> </ul>

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	8月 9月	ウガンダの子供たちに自己紹介をしよう	ウガンダとの交流が本格的に始まるということで前向きに取り組んでいた。自分の名前と趣味を英語で書くことに少し戸惑っていた。	総合6
共有 テーマ学習	9月 10月	秦梨のよさと未来に残したいものをウガンダの子供たちに伝えよう	活発に意見を出していた。多くの項目を4つに分類し、それをフォーラムでウガンダに伝えた。自分たちで写真を撮影したり、英訳した文章を入力したりしていた。	総合12
融合 メッセージ 壁画デザイン	11月	壁画のレイアウトとデザインを決めよう	児童8人が分担して描くことができるようにレイアウトを考えた。テーマである「未来に残したいもの」を8項目に整理・分類して、壁画のデザインを決めていた。	図工4
創造 壁画制作	12月	壁画を制作しよう	自分が担当する部分をていねいに描くことができた。早く描けた子は、他の子の手伝いをしながら、協力しながら制作活動を進めることができた。	図工8
評価 振り返り 自己評価	1月 2月	全校のみんなや地域の方に発表しよう	全校の児童、地域の方に向けて活動の内容を発表し、壁画を展示した。プレゼンテーションを利用して、きちんと発表することができた。	総合4

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入 (A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	5	家族や地域の方にも聞き取りを行い、地域のよさや未来に残したいものを客観的、多面的に考えることができた。
異文化の理解	A	4	フォーラムでメッセージや画像を通してウガンダへの理解が深まった。フォーラム以外での交流ができなかった。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	B	3	きちんと目標を達成した児童もいるが、サポートを必要とする児童もいた。特に、英語に関しては難しい面が多かった。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	3	校外活動の機会、子供たちが使用できるメディアが少なかったりして、十分な情報収集や発信には至らなかった。
人間関係をつくる (学級内・海外の相手)	A	4	学級内の人間関係は目標を達成したが、相手国の子供たちとの関係については、人間関係をつくる段階に達していなかった。
協働する力 (役割分担・協力)	A	5	話し合いの場面で意見を出し合ったり、壁画を分担・協力したりする姿は意欲的で、十分に目標を達成できた。
学習を追究する意欲	A	4	いろいろな話し合いは活発であったが、どちらかという広く浅い感じであった。深まりという部分ではやや不十分であった。
表現力 (伝えたいことを言葉・絵で表す)	A	4	壁画についてはうまく表現できたと思うが、言葉については英語に対する知識も乏しく、表面的なことしか伝えられなかった。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	A	4	活動の内容をきちんと発表することができた。作品に関してもいろいろな感想もあった。自己評価は基準があいまいであった。